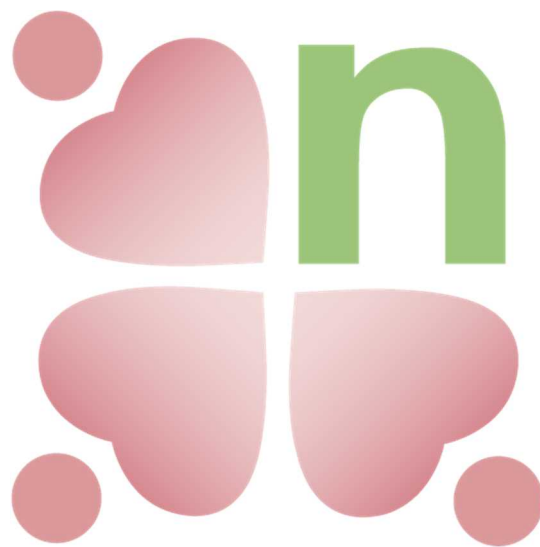


なごや看護学会 設立式・第1回学術集会



会期：平成30年11月17日(土) 15:30～18:00

会場：名古屋市立大学 さくら講堂

<全体スケジュール>

- 15:30～15:50 設立式
- 16:00～17:30 第1回学術集会(設立記念シンポジウム)
- 17:35～18:00 会員総会
- 18:15～19:30 設立式・第1回学術集会懇親会

第1回学術集会テーマ「看護実践と研究をつなぐ」

16:00	開会
16:05~17:30	設立記念シンポジウム
	座長：明石 恵子（名古屋市立大学看護学部クリティカルケア看護学 教授）
	シンポジスト：日高 橘子（名古屋市中保健センター保健予防課 課長）
	高井 奈美（名古屋大学医学部附属病院看護部 慢性疾患看護専門看護師）
	益田美津美（名古屋市立大学看護学部クリティカルケア看護学 准教授）
	田井 雅子（高知県立大学看護学部精神看護学 教授）
17:30	閉会

< 設立記念シンポジウムの趣旨 >

第1回学術集会長 明石恵子

本学会は、看護実践者と研究者をつなぐことを趣旨としており、そのスタートとして、学会設立記念シンポジウムを企画いたしました。人々の健康と生活を支える看護を探求し、看護の質を向上させるために研究は不可欠です。しかし、健康障害を持つ人々を対象とする看護において、「研究」という視点で介入し、実践に適用できるレベルの成果を実証することは容易ではありません。そこで「看護実践と研究をつなぐ」をテーマとし、なごや看護学会のねらいである「発信と共有」「連携と協働」「社会貢献」という三つの視点で、看護実践家と研究者それぞれが感じている研究への課題とその取り組み方を議論したいと思います。

1. みる・つなぐ・うごかす～住民とともに創る地域包括ケアシステムに向けた研究者の協働

名古屋市中保健センター 日高橘子

平成25年発表された「保健師活動指針」の中に、「住民の主体的活動の支援、災害時支援、健康危機管理、関係機関とのネットワークづくり、包括的な保健、医療、福祉、介護等のシステムの構築等を実施できるような体制を整備する」ことが示されました。これは「みる・つなぐ・うごかす」という保健師の機能を象徴したものです。保健師には、地域の健康課題を解決するために、住民、関係者及び関係機関等と協働して各種保健医療福祉計画を作成し、その計画を効果的に実施して、地域の健康課題の解決を図ることが切実に求められています。

特に地域の課題分析において、行政が抱える膨大なデータの科学的な分析のために、研究者との協働は必須となっています。

今回のなごや看護学会の設立により、管内の行政機関と研究者の研究連携と協働が一層すすみ、地域住民の健康課題の解決に役立てることを祈念しています。

2. 看護実践者から考える看護研究

名古屋大学医学部附属病院看護部 高井奈美

看護実践の質向上に不可欠なことは、保健・医療を必要とする人々のニーズを的確に捉え、継続可能な組織的変革と考えます。これは、私が慢性疾患看護専門看護師教育課程で学んだ研究の意義でもあります。私が学んできた看護実践研究は、研究者が現場で看護実践を行いながら、自分のフィールドで起きている問題について幾度となく分析して課題を明確にし、その課題解決に向けた方策を考えていくプロセスを大切にしています。実践者が研究者である事から、同僚や上司といった看護職だけでなく他の職種も必然的に共同研究者となり、研究的視点で実践の場にある課題に取り組むことが可能となります。この問題解決プロセスの中で看護職は主体的に生活者のニーズを捉える力や発展的で継続可能な組織変革の方策を考える力を養うことができると考えています。

この度、「看護の質を向上させるためには研究は不可欠である」ことを掲げ、第1回なごや看護学術集會が開催されることを心よりお祝い申し上げます。看護の実践の場では、研究は難しいものであり、一部の看護職が行うことと捉えがちになることもありますが、実践者だからこそ気付く課題は日常の中にたくさん出会うことができます。私は、看護実践者の立場から生活者のQOLの向上を目指した看護実践の質向上と組織の改革について、日々の看護業務の中で具体的な取り組みを含めて自身のフィールドでの研究成果を紹介しながら報告します。

3. 看護実践と研究をつなぐ～大学教員の立場から～

名古屋市立大学看護学部 益田美津美

1) はじめに

法制上、大学教員とは、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、または研究に従事する存在である。つまり、研究指導だけでなく、自ら研究に従事することも、大学教員の重要な課題であり、当然の責務である。大学教員が行う研究の対象は学生や看護師、患者など様々であるが、本シンポジウムでは、大学教員の立場で患者を対象とする研究への取り組みについて紹介したい。また、臨床との連携をどのように構築していくかについて検討する契機になればと思う。

2) フィールド開拓

研究を行っていく上で、研究フィールドを確保することは必須であり、研究遂行の障壁の一つでもある。特に、大学教員の立場で患者を対象とする研究を行う場合、研究フィールドの開拓は他施設との交渉が必要になるため難しい。

3) 研究活動の輪を広げる

大学教員の立場から臨床現場に入りこむには、現場の医師、看護師などの協力を得て、連携できるような関係性を構築していく必要がある。この際重要となるのが、コミュニケーション、交渉などのスキルである。

4) 研究成果の還元

研究活動を継続するだけでなく、研究成果を実践にいかに関用するかが重要である。自らの研究の成果を、実際に患者への看護支援につなげられる環境にあることが何よりの喜びであり、課題でもある。

4. 臨床の看護職者と研究者との共同研究を進めるために

高知県立大学看護学部 田井雅子

医療制度の変化、医療を受ける人々のニーズや期待の変化など、看護を取り巻く状況が急速に変化を遂げる中で、人々により質の高い看護を提供する必要性が高まっている。加えて、様々な専門職との協働が進み、看護の果たす役割を伝え、看護の成果を示すことが求められている。このような状況からも、根拠に基づく看護実践と看護行為の可視化が重要であり、そのための手段のひとつとして看護研究は不可欠といえる。

看護研究は研究者中心で行う場合と、臨床の看護職と研究者が連携・協働して行う共同研究がある。前者の場合、中長期的、継続的に取り組む研究が可能であるが、研究の対象や場の確保が難しくなっていることや、研究成果を実践現場の活用につなげる上での課題がある。後者の場合は、実践現場が研究のフィールドでもあり、今まさにある現場のニーズや課題解決に直結するテーマに焦点を当てることが多く、生み出された研究成果を日常の看護実践に活用し、対象に還元しやすい利点がある。一方、研究のための調整が大変などの声も耳にする。

今後、共同研究を進めるには、臨床の看護職者と研究者が互いの資源や情報、スキルを提供し合い、対等かつ主体的に取り組める仕組みづくりが重要である。今回は、多施設の看護師と行った共同研究を紹介し、共同研究に取り組む際の課題と、どのように取り組めばよいのかについて、皆様と共に考える機会としたい。

<学会入会のご案内>

ホームページの入会案内にしたがって、入会に必要な情報を入力して下さい。
入会申込書を使って入会される方は、ホームページから様式をダウンロードし、
学会事務局へメールまたはファックス、郵便でお送り下さい。
入会申し込みを受け付けた後、理事会の承認後にお振込み方法を連絡しますので、入会を希望する年度の年会費をお支払いください。



<なごや看護学会誌 論文投稿のご案内>

投稿者の資格：筆頭著者は、本学会の正会員であること
投稿論文種別：総説/ 研究論文/ 実践・活動報告など
詳細は学会ホームページの投稿規程をご覧ください。

<問い合わせ先>

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
名古屋市立大学看護学部内 なごや看護学会事務局
TEL/FAX 052-853-8042
E-mail: nna-jimu@n-kango.org
ホームページ: <http://www.n-kango.org>



後援：本会は名古屋市立大学看護学部振興基金からの助成を受けています。